

## 会 議 録

会議の名称	令和4年度 第3回茨木市男女共同参画推進審議会
開催日時	令和4年12月20日（火）13時30分～14時45分
開催場所	茨木市役所本館5階第2会議室 ※Zoomで開催
議長	長町 理恵子 会長
出席者	長町会長、平山副会長、入交委員、田井委員、樫本委員、矢野委員、五寶委員、藤里委員、中野委員、道満委員、城谷委員【11人】
欠席者	畑委員【1人】
事務局職員	中井市民文化部長、松山市民文化部次長兼人権・男女共生課長、富崎参事兼ローズWAM所長、木下所長代理、源本課長代理兼男女共生係長、大和
開催形態	公開（傍聴人 2人）
議題（案件）	(1)（仮称）第3次茨木市男女共同参画計画素案について (2) その他
配布資料	・会議次第 ・（資料1）（仮称）第3次茨木市男女共同参画計画素案 ・（資料2）（仮称）第3次茨木市男女共同参画計画数値目標（案） ・（資料3）指標の考え方

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	(傍聴者 2 名入室)
事務局	「令和 4 年度第 3 回茨木市男女共同参画推進審議会」を開催する。
長町会長	本日の出席状況について事務局より報告をお願いする。
事務局	<p>&lt;会議の成立について説明&gt;</p> <p>本日の出席状況は、委員12名中11名が出席、1名が欠席である。過半数の出席をいただいているので、茨木市男女共同参画推進審議会規則第 6 条第 2 項により会議は成立をしている。</p>
長町会長	<b>案件 1 「(仮称) 第 3 次茨木市男女共同参画計画素案について」</b>
事務局	<b>【事務局により説明】</b>
長町会長	ご意見等あれば、自由にご発言願いたい。
藤里委員	素案の P. 74 にローズWAM の認知度の向上について記載があるが、県外や隣接する市のパンフレットは充実しているのに対し、ローズWAM のパンフレットは他市と比較して少ないように見受けられる。隣接する自治体へは、PR や啓発アイテムを配るなどしたほうがよいのではないかと。よい場所であるにも関わらず認知されていないと感じるため、PR に力を入れていただきたい。
事務局	近隣の同種施設には送付しているが、より一層周知に努めていきたい。
長町会長	今後、充実した拠点づくりをお願いしたい。他にいかがか。
樫本委員	「いばらきジェンダー平等計画」というタイトルがしっくりこない。自分自身は、ジェンダーに関わる仕事をしてきて目に触れる機会も多かったため理解できるが、一般市民の方は疑問に思うのではないかと。ただ、「第 3 次茨木市男女共同参画計画」は、性にこだわらない生き方をされている方にとってはどうかとも思う。どちらがメインタイトルになっても違和感がある。
入交委員	ジェンダーという言葉が入ってきたときは、教育の現場になかなか馴染まず、言葉が独り歩きしている傾向があったが、「男女共同参画計画」

議 事 の 経 過

発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>という言葉より、これを機に「いばらきジェンダー平等計画」と打ち出したほうがいいのではないかと。SDGsが謳われてから、ジェンダーという言葉が新たな意義を持って若者達に浸透した。昔より受け入れやすい言葉になり、他市の計画にも少しずつ見られるのであればなおさら、茨木市があらためて人として皆が平等だと啓発するために、「いばらきジェンダー平等計画」を表に出してもよいのではないかと。</p>
長町会長	<p>例えば、「男女共同参画（ジェンダー平等）計画」といった折衷案は可能か。</p>
田井委員	<p>先日、ローズWAMのチャレンジ企画で性の多様性に関する研修を開催し、実際に当事者の方から話を聞く機会があったが、やはり「男女」というくくりで考えるのは難しいと強く感じた。それを「ジェンダー」という言葉で表せるかはわからないが、大人よりも子どもたちの間では身近な言葉として存在していると感じる。今後は「ジェンダー」をメインにしたほうが、いろんな人の力になると思う。</p>
平山副会長	<p>「男女共同参画」と「ジェンダー平等」をタイトルとサブタイトルとして並列にしているが、そもそも同じ意味なのか疑問を感じる。共同と平等は違うと思うので、そのあたりの混乱が無いようにしたい。</p> <p>また、男女というくくりを打ち出すことによって、自分の居場所がないと思う人が出てはいけない。あえて「男女共同参画」という言葉を使い続けるのであれば、その言葉を使う理由付けが必要である。学生などと接していると、「ジェンダー」という言葉は抵抗なく受け止められているので、その言葉を使用することで、わかりにくいと拒否されるものではないと思う。この計画ではしっかりと定義して書いてあるので、使うこと自体に問題ないと思う。</p>
事務局	<p>他市の計画などでは、「ジェンダー平等」は「男女共同参画」という言葉の代わりに使われているものが多い中、茨木市だけ「ジェンダー平等」を「男女平等」という意図で使い、新しく定義するのも難しいのではないかと考えている。国の計画にも「ジェンダー平等」という言葉があるが、定義付けや言葉の説明はなく難しい部分だと感じた。「ジェンダー」という言葉は、若い世代にも、またSDGsの観点からも認識されつつある。こちらをメインにというご意見が多かったのもあり、「ジェンダー」という言葉をメインにする方向で進めたい。</p>

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
樫本委員	若い方だけでなく、色々な年代や立場の方にも関係があるので、これまでの意見を基に、「平等」と「参画」の違いやその見解など、このタイトルに決定した趣旨や説明を入れていただきたい。また、「ジェンダー平等」とすれば広範に捉えていくことになり、更に多くのことを施策に入れていかななくてはいけない。タイトルにこだわった理由なども入れていただくことで、この冊子が作られた意味が伝わると思う。
藤里委員	「男女共同参画」という文言を入れなければいけない、という決まりはもうないか。タイトルは堅い名称にして、サブタイトルとして「ジェンダー」にするほうが現時点では若い世代以外にも受け入れやすいのではないか。
中野委員	性別分け隔てなく共同参画するという考えの中、なぜタイトルが「男女」となっているのかとと思っていた。「男女」を削除してもよいのではないか。「ジェンダー」という言葉が浸透してきた分、「男女」という言葉が邪魔をしているのではないか。
城谷委員	「男女」ではなく、「ジェンダー」という言葉が適切だと思うが、個人的な意見とは別に、「男女共同参画」と「ジェンダー平等」、どちらが正解かという議論になれば、どちらも正解だと思う。ただ、茨木市が今後の目指す方向を考えた時に、「ジェンダー平等」という、個人として尊重される世の中で皆が平等に活躍できるような社会を目指すことを前面に押し出すネーミングにするのか、それとも「男女共同参画」のように全世代に認知されている言葉を用いるのかの違いだと思った。「男女」というくくりに入らない方々の、自分達の権利を認めてほしいという声を今までに比べてよく聞くようになってきた。「男女共同参画社会」は、女性の立場が弱く、女性も男性と同じように社会に参加したいという時代に掲げられた言葉。まだ男女が平等になっているとは感じないが、「男女」という部分には抵抗感があり、今後の茨木市が目指すべき方向を考えると「男女」という言葉は入らないほうがよいと思う。「ジェンダー」という言葉を入れるときは、補足を入れれば全世代の方に分かりやすいものになる。
長町会長	メインのタイトルを「ジェンダー平等」にした場合、計画の中の文言について、男女共同参画の視点で書かれている部分を精査する必要がある、という理解でよいか。
事務局	【指標について事務局により説明】

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
長町会長	意見等あれば自由にご発言をお願いしたい。
藤里委員	指標16番「DVやデートDVにおいて、次のような行為を「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合」について、「DV」や「デートDV」も浸透している言葉だと思うので、「DVやデートDVにおいて」という部分は無くても伝わるのではないかと。広範な意味での暴力でどのような場合でも人権侵害である、という表現のほうが伝わりやすい。指標の名前を変えると分かりやすくなると思う。
中野委員	「DVやデートDV」と書くと、夫婦間やカップル間の話になってしまう。同性でも暴力と捉えられるのであれば、年齢性別関係なく当てはまるようにしてもよいのではないかと。
五寶委員	カップルや夫婦ではない場面でも当てはまることだと思うが、この言葉を削除することに対しては迷うところである。身体的な暴力以外でも暴力に当てはまるということは知ってもらう必要がある。「DVやデートDV」はあってもよいと思う。
樫本委員	「多様な立場の人々が安心して暮らせる環境の整備」について、「多様な立場の人々」と大きく捉えるのであれば、「DVやデートDV」という言葉は外して、広い意味で捉えられるほうがよいと思う。DVに関係なく、友達関係でも携帯を勝手に見るなどのモラルの問題も広い意味で暴力と捉えられると思う。ただ、DVやデートDVも大事なことで、そこに特化して伝えることも大切である。
城谷委員	指標の中には、男性職員の育児休業取得者率や自治会長の女性の割合など、他市に比べて順調に進んでいる箇所もある。順調に進捗しそうな項目にも関わらず、下方に設定されているのが気になった。更に伸びそうな部分は設定値を上げてよいのではないかと。上手くいっている部分を他と横並びにするために抑える必要はなく、より活発に進んで、他を引っ張り上げるようになればよいと思う。特に、男性職員の育児休業取得者率は現在20%あるにも関わらず、10%を安定的に上回るようする、と下げるような言い回しになっている。下に設定するのではなく、20%を安定的に上回る、または30%や40%を目指す、など、茨木市の誇れるところとしてアピールできるようなものにしてはどうか。
藤里委員	指標16番の「DVやデートDV」の文言を入れるか省くかという議論について、

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 ( 案 件 ) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	「いかなる関係においても」という表現に置き換えることで解決できないだろうか。カッコ書きで「(DV・デートDVなど)」と補足するという方向ではいかがか。
矢野委員	指標15番「パパ&ママクラスのカップルの参加率」について、目標の85%は達成できると考えていたが、今回75%と目標値より10ポイント下がっている。コロナの影響もあると思うが、何故ここまで上がってきた数値が下がったのか、理由を事務局に聞きたい。
事務局	指標16番については、計画の中に恋人や配偶者間の暴力を無くすという施策が入っているため、このような言い回しになっている。恋人間という部分に関しては、異性だけでなく同性カップルも含まれるという解釈で捉えていただきたい。「DVやデートDV」という言葉を外してしまうと、あらゆる暴力と捉えられてしまい、広がりすぎると感じている。 14番の育児休業の取得者率については、特定事業主行動計画を引用しておりこの計画で先に数値目標を定めることが難しいため、担当課からこのような書き方を提案された。審議会でのご意見は担当課に伝える。 15番のパパ&ママクラスの参加率は順調で、令和2年度には100%になったが、令和3年度に75.3%まで下がった。担当課によると、令和3年度からオンライン講座になりパートナーの参加率が減少したことが原因としている。以前は沐浴演習など体験型の内容が含まれていたが、オンラインの場合は実技がないため、参加率が下がったと思われる。
長町会長	今の説明を受けて何かあるか。
田井委員	指標16番について、「多様な立場の人々が安心して暮らせる環境の整備」という項目としては、「いかなる人においても」という表現がふさわしいかとも思ったが、「DVやデートDV」という言葉は残してほしい。その文言が入ることでより分かりやすく、目標に照らし合わせやすくなると思う。
長町会長	指標16番の現状値は市民意識調査の数字を引用していることから、この指標名が市民意識調査の文言であれば、大きく変えるのは難しいのではないかと思う。
事務局	市民意識調査の文言を引用している。
長町会長	<b>案件2「その他」</b>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【事務局説明】
長町会長	ご意見があればご発言願いたい。
事務局	次回の審議会は令和5年2月22日（水）午後5時からオンライン形式で開催予定である。本日の会議録については、作成次第、委員の皆様へ送付するのでご確認願いたい。
長町会長	以上で第3回茨木市男女共同参画推進審議会を閉会とする。